

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.39 2021.10.22

2021年 明石塾活動報告（8月～9月） 第20期生の活動がいよいよ始まりました

男子7名、女子14名、合計21名（16校）が入塾しました。8ヶ月にわたる研究員による英語研修や本学教授陣による講義、明石康名誉塾長による特別講義など多彩なプログラムでの学びを通して、国際的な視野と高い志、国際舞台で堂々と発信し行動できる力を身に付けていきます。

9月1日現在

2021 明石塾研修計画（年内）

日付	午前研修・講義 10:00～12:30	午後研修・講義 13:30～16:00
7月31日(土)	—	入塾式 小林良江塾長（県立女子大学長）
8月5日(木)	英語研修① 研究員 David / Dermot Get-to-Know-You Activity / Introduction to Presentation	講義① 文学部総合教養学科 歸山亜紀准教授 「社会調査のしくみ」
8月6日(金)	英語研修② 研究員 David Speech Acts	講義② 文学部美学美術史学科 奥西麻由子准教授 「世界をつなぐ絵本の世界」
8月7日(土)	講義③ 群馬学センター 松浦利隆教授 「群馬県紹介」	英語研修③ 研究員 Milena Non-verbal Communication
8月10日(火)	英語研修④ 研究員 Mark Appearance and Stereotypes	講義④ 国際コミュニケーション学部 野口和彦教授 「戦争とコミュニケーション—ベトナム戦争の事例—」
8月11日(水)	英語研修⑤ 研究員 David What is Culture	講義⑤ 国際コミュニケーション学部 M.R.フライヤーミュージス教授 N.スネイブ教授 “City Life”
8月12日(木)	英語研修⑥ 研究員 Dermot Japanese Identity	講義⑥ 文学部英米文化学科 小林隆准教授 「英語の会話を分析してみよう」
8月28日(土)※	英語研修⑦ 研究員 Milena Ethnocentrism	テーマ討論① 町田副所長
9月11日(土)※	1期生～20期生 Group Meeting	明石康先生御講義
10月16日(土)	英語研修⑧ 研究員 Mark Environmental Issues	公開研修（プレゼンテーション準備）
10月23日(土)	英語研修⑨ 研究員 Timothy Population Growth	公開研修（プレゼンテーション）
11月13日(土)	英語研修⑩ 研究員 Harry Climate Change	社会人講義(卒塾生) IBM 桐生愛氏
12月11日(土)	英語研修⑪ 研究員 Harry Japan's Aging Society and Immigration	テーマ討論② 町田副所長
12月18日(土)	英語研修⑫ 研究員 Dermot Problems Facing the World in the 21st Century	グループディスカッション 町田副所長

※8月28日及び9月11日実施予定の研修・講義等は、緊急事態宣言が発出されたため日程再検討中

諸般の事情に鑑み、昨年度同様に海外研修やフィールドワークは実施できませんが、その分英語研修やテーマ討論などの活動等の時間を増やし、例年よりも密度の濃い研修を計画しています。塾生や研究員との交流を深めながら、英語力のみならず質問力、多角的・客観的に物事を捉えられる力を身に付けていきます。

入塾式 7月31日

小林良江塾長（県立女子大学長）は、「群馬県は明石先生のように高い志と広い視野、そして国際舞台でも活躍出来る人材を育成しようと、この明石塾を20年前に開塾しました。本当に小さな芽でもかまいません。この明石塾の中でその芽を少しでも伸ばしてください。」と式辞を述べられました。

入塾生を代表して、ウィザロー・ジェームズさん（四ツ葉学園中等教育学校4年）は、「明石塾ではSDGs等、関連した社会問題に対し、いったいなぜこのような問題が起きているのか、どのようにしたら解決できるかなどをみんなで話し合い、考え、自分なりの答えを見つけたと思います。自分の考え方にはなかったこと、驚いたこと、感心したことを自分の中に取り入れ、少しずつ物事を様々な視点から見るができる人になっていきます。」と堂々と挨拶をしました。



式辞を述べる小林塾長



入塾許可書授与



入塾生代表挨拶

本学教授陣による講義(8月5日~12日)

8月5日(木)から12日(木)にかけて、集中講義期間として本学の教授陣による講義がありました。専門的な講義や演習、絵本作りやグループワークなど様々な形式での授業となりました。また、先生方自身の研究分野の魅力、面白さについてについて語り、塾生からの質問にも丁寧に回答してくださいました。

【講義された先生方】



歸山亜紀准教授 (総合教養学科)



奥西麻由子准教授 (美学美術史学科)



松浦利隆教授 (群馬学センター)



野口和彦教授
(国際コミュニケーション学部)



M.R. フライヤーミュージス教授
N. スネイブ教授
(国際コミュニケーション学部)



小林 隆准教授 (英米文化学科)

【塾生の「気づき」や「学び」】 * 「ふり返しシート」から一部抜粋

- ・ 社会調査といっても本当に様々な調査方法があるということ。それぞれメリット、デメリットがあって工夫されているということ。何がきっかけで自分の将来の夢が見つかるかわからない。
- ・ 少ない表現方法で、自分の考えを単純な表現で伝える難しさがあるという点で、英語にも絵本にも共通する点がある。
- ・ 自分が育った群馬のことは、それなりに知っているつもりでいたけれど、むしろ知らないことの方がほとんどだった。つい世界のことばかり見ようとしがちだが、まずは自分の身の回りのことをしっかりと知ることが大切だと痛感できた。
- ・ 思い込みや誤解のまますれ違っていってしまい、ベトナム戦争のような悲劇が起こってしまうことがあると学びました。相手が敵であっても対話を怠ってはいけないう、相手は自分の考えているように考えるだろうと思いつまらず、相手を理解することが大切だと感じました。
- ・ 全員が意見を出して作った劇に参加したことで達成感を得られた。英語でのコミュニケーションは難しいこともあるけれど、意思疎通のための道具として使うことに大きな意味があったと感じた。
- ・ コミュニケーションには意図が含まれている、これを理解するのが大変。色々な視点で物事を考えることが、少しでもできるようになった気がします。
- ・ 何事も興味を持って調べることが、自分の方向性を決める上で大切だ。
- ・ 自分は講義の時、つい受け身になって聞いてしまっていた。学校でも感じたことだが、聞いている時から、批判的に話を噛み砕いていく力がまだ自分にはないと感じた。
- ・ 確証バイアスの恐ろしさ。思い込みで戦争も発生してしまうのかと思った。自分もそれを上手く回避するような大人になりたいと思った。
- ・ 自分たちが何気なく無意識にしていることにも法則があったりする事に気づけて、とても面白かった。

塾生たちは、講義を通して学問的な知識を得ただけでなく、新たな学びや発見がありました。これらを今後の人生に活かし、明石塾が掲げる「国際的な視野と高い志、国際舞台で堂々と発信し行動できる力を備えた人材」に近づいて欲しいと思います。

研究員による英語研修

外国語教育研究所の研究員による研修も始まりました。それぞれの研究員がテーマを設定し、塾生は講義を受け、それについて仲間や研究員とディスカッションを行います。塾生は文化学、環境問題、人口問題などについて学び、ディスカッションを行いながら、英語力のみならず諸問題についての理解を深めていきます。



David 研究員と Dermot 研究員



Milena 研究員



英語研修の様子①



Mark 研究員



英語研修の様子②

高等学校連携英語授業 バランスのとれた英語力育成を目指します

調和のとれた総合的英語能力の育成や、英語学習の動機付けとその環境づくりのため、高等学校連携英語授業を実施しています。今年度は、新たに高崎商業高校も加わり、伊勢崎高校、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校、四ツ葉学園中等教育学校の5校で実施予定です。

高崎経済大学附属高校では、「沖縄と北海道、どちらがいいか」や「外見と中身、どちらが大事か」など身近なテーマでディベートを行いました。グループ毎に研究員がついて、自分たちの論拠や理由、反対グループへの質問内容などを英語で考え、楽しみながらも真剣に取り組んでいました。

高崎商業高校では、汚染問題やプラスチックゴミなど、SDGsに関連する問題について研究員から講義を受け、その解決策などについてディスカッションを行いました。生徒たちは、最初は英語を使うことに戸惑いながらも、研究員のアドバイスを受けながら徐々にディスカッションにも慣れ、学びや気づきのある授業となりました。



高崎経済大学附属高校①



高崎商業高校①



高崎経済大学附属高校②



高崎商業高校②

企業英語研修 社員の英語力向上を応援します

昨年度に引き続き、今年度も県内企業「サンデンホールディングス」の新入社員に英語研修を行いました。研究員2名が出向き、簡単な自己紹介、社内に実際に使われている役職名の英単語、上司や部下への依頼表現の仕方など、基本的な挨拶からやや高度な会話表現まで研修を行いました。

久しぶりに英語に触れる新入社員も多い中、研究員から多く話しかけられることで次第に英語にも慣れ、実際に使って通じる体験を通して、語学学習の楽しさを実感したようでした。社会貢献の一環として、今後も地元企業との連携を深め、ニーズに合ったサポートを行っていききたいと思います。



研修風景①



研修風景②



研修風景③

留学支援 チャンスを最大限活かします

コロナウィルス感染拡大により渡航を見合わせていましたが、大学が指定した条件を全て満たした交換留学を希望する学生に対し、留学を許可することになりました。

今回該当するのは、カナダのヒューロン大学への交換留学生として既に選抜されていた、国際コミュニケーション学部3年の安澤彩夏さんと、同学部3年の山上みもごさんです。2人は当初昨年度留学予定でしたが、感染拡大により延期となっていました。待ちに待った留学となります。

留学に先立ち、小林良江学長と上原克之事務局長から激励の言葉を頂きました。小林学長は、「感染対策を充分にしてヒューロン大学でのキャンパスライフを満喫してください。勉強面では確かに多くの課題が出ることでしょうが、気持ちを切り換える意味で一週間に一度は必ず休む、ということをお勧めします。大いに学んでください。」と激励しました。上原事務局長からは、「色々な人と触れ合って、その中で多様性っていうものを学んでいただくという事が二人の人生の糧となります。またそれを本学に還元していただくと非常にありがたいと考えています。」とお言葉を頂きました。



小林学長と上原事務局長からの激励

安澤彩夏さんは挨拶の中で、「今回こういった形で行かせていただけるようで尽力いただいたことにとても感謝しています。広い視野をもつとともに、できることを精一杯やってこようと思います。」と述べました。山上みもごさんは、「私達がコロナ渦でも留学できるようになったというのは、色々な人に支えてもらったおかげだと感謝しています。自分の体を大事に、まずは無事に帰ってくるということを第一に、英語力のみならず、色々なものをしっかり身に付けてきたいと思います。」と留学への想いを述べました。

外国語教育研究所は、留学に関する相談や情報提供を随時行ってまいります。



挨拶する安澤彩夏さん(国コミ3年)

